



## 史跡見学会「根室の戦争遺跡を巡る」

2015年6月6日

根室市歴史と自然の資料館が開催した史跡見学会「根室の戦争遺跡を巡る」に参加しました。

市民ら20名以上の方々が参加し、戦後70年たった今あらためて飛行場施設跡やトーチカなどを、資料館の学芸員さんの案内のもと見学しました。

当時、飛行場や掩体壕などの作業に携わったのは、強制的に朝鮮から連れてこられた労働者2,000人と日本の服役者1,000人など合わせて、3,000人以上と言われているそうです。

劣悪な環境の中で作業に従事し、昭和18年のチフス発生では100名以上の方が亡くなるなど多くの被害がありました。

これらのような戦争遺跡は資料がほとんど残っておらず、近隣の農家の方々などが丹念に調査をおこなってまとめた同人誌集がだされています。

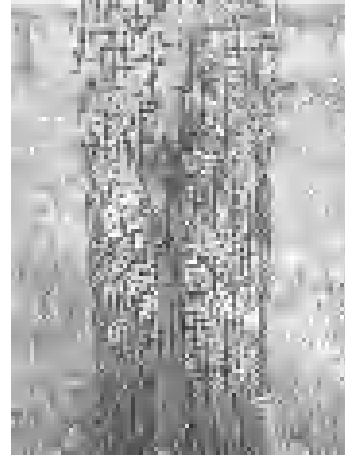
市民の方々をはじめ、多くの方々が力をあわせながら、今後こうした遺跡を保存していく必要性について改めて考えさせられました。

あわせて、根室市行政としても「戦争遺産」の保護のあり方について、しっかりとした考え方をまとめていく必要があるのではないのでしょうか。



## シカよけの防護用ネットが大きな効果 第21回根室市植樹祭

2015年5月31日



第21回根室市植樹祭が、根室市市民の森で開催されました。朝から小雨交じりのあいにくの天気でしたが、関係団体や子どもさんを含めた市民の方々が大勢参加され、エゾヤブガラシ、コリザガラシ、ミナラの苗木を200本以上植樹しました。

これまで、この市民の森の植樹場所は、強風やエゾシカの食害被害などから植樹したサクラなどの木々の活着率がとても悪いことが指摘されてきました。

対策として市は、去年の植樹祭から植樹した木に一本一本にシカから保護するネットを設置しました。その結果、ネット設置後一冬越して、過去に植樹した木々と比べると、葉や枝が無事に保護されている様子が見え始めました。また今年の春には、去年植樹したサクラが花を咲かせたという話も聞かれました。

担当者の方々がさまざまな点で創意工夫を重ねてきている様子が見え始めます。

## 日ロサケマス漁業問題と領土問題を視察・調査

日本共産党国会議員団北海道事務所

いわぶち友さん・森つねとさん

2015年6月9日

日本共産党国会議員団北海道事務所から「日ロサケマス漁業・領土問題等調査団」として、岩淵友（いわぶちとも）さん、森英士（もりつね）さんが根室を訪れました。岩淵友さんは来年おこなわれる参議院選挙の比例代表予定候補として、北海道・東北を活動地域に活躍しています。また森英士さんも同じく来年の参議院選挙で北海道選挙区からの立候補を表明し、全道を駆け回っています。

根室市役所で副市長さんと水産経済部長さんから、根室漁協では専務さんから、対ロシア問題で揺れる根室の漁業の状況について説明いただきました。

「昭和50年代の200カイリ問題のときは沿岸資源の開発のためにホタテ魚場を造成したが、今度ロシアの海から日本船が締め出されたら代替の漁業はない」と、根室漁協の専務さんは語ります。「国の力で漁業外交をしっかりとすすめていただきたい」と。また、「国全体で必要とする漁業生産量を確保するためには、自然の成りにまかせにすることなく、国がしっかりと対応をすすめる、また特に漁業者の子ども達にとって魅力ある漁業政策をとっていく必要がある」と述べておられました。

千島歯舞諸島居住者連盟では副理事長さんから、島を追われた当時の厳しい体験をはじめ、領土返還運動の現状や後継者育成などの課題について説明くださいました。

